

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 小川 博  
 学科名・専攻名 農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、毎年見直しを行っている。とくに 2018 年度 4 月の学部改組による授業科目の大幅変更を踏まえ、学年進行にともなう授業の円滑な進行を図りながら、実施状況の把握に努めた。	3 年生以降の演習および卒業論文作成を意識した教育を、1 年生対象の基礎演習など複数の科目で行った。とくにプレゼンテーション力を高めることを目的とした。	シラバス作成、成績評価を大学の基準を順守して行った。またディプロマ・ポリシーの検討を行い、あらためて教員間でその意味を共有した。	実験、演習、農業実習のほか卒業論文を必修としている。とくに卒業論文は、学生との密度の高いコミュニケーションが必要であり、重視している。また客観的評価法の確立（PROG など）に取り組んでいる。	教育課程及びその内容、方法の適切性は、学科長・主事他数名の教員からなる農学科カリキュラム検討委員会を設置し協議している。定期的に学科会議などに諮問、協議して、改善・向上を図っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 農業実習（一）（二）に加えて 2 年次に農業実習（三）を配すなど、実習を重視したカリキュラム体系になっている。	<b>【長所】</b> 卒業論文を早い段階で意識させ、プレゼンテーション力を身に付けさせられる。	<b>【長所】</b> 実習を重視することで、知識だけでなく、思考力、判断力、問題解決能力を身に付けさせられる。	<b>【長所】</b> 全員に卒業論文に取り組ませることで、学習成果の把握を可能としている。	<b>【長所】</b> 農学科の特徴である実習重視の教育方針を、堅持できている。
	<b>【特色】</b> 伊勢原農場の協力を得ながら、濃い内容の実習教育を実施している。	<b>【特色】</b> 情報基礎（一）（二）を学科独自に開講し卒業論文作成へのテクニカルな部分を早期に習得させている。 ・選択科目であるが、「農業インターンシップ」での学びは、学習の活性化に大きな成果を挙げている。	<b>【特色】</b> 社会人として主体的、協働的な活動ができる能力を重視した評価となっている。	<b>【特色】</b> 卒業論文は 3 年次のできるだけ早い段階から意識付けを行い、卒業後の幅広いニーズに対応できるよう配慮している。 ・定期試験のみの評価ではなく、小テストなど多面的な評価の導入を進めている。	<b>【特色】</b> 実習は伊勢原農場の協力が欠かせない。協力を得ながら、中身の濃い内容となっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> 学生の個々の履修において選択の幅が狭い。
	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし
根拠資料名	資料基 1	資料基 2	資料基 3	資料基 4	資料基 1

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	2018年4月からの学部改組が実施されたことを踏まえ、学科の独自性を確保しながら、農学部全体を盛り上げるべく、学生募集等に取り組んだ。入試課と連携を密にし、新しい入試制度のスムーズな導入を図った。個々の入試制度の目的にそって、口述試験（面接）の評価基準を見直した。	農学部入試広報委員会と連携を取りながら、改善・向上に向けて取り組んでいる。とくに出張講義には力を入れて、高校生からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどの改善に活かした。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 入試問題作成委員会を中心に、適切な入試問題の保持につとめた。	<b>【長所】</b> 入試課を中心に、農学部他3学科と連携して制度や体制の見直しを図っている。
	<b>【特色】</b> 引き続き公正な実施に向けて体制を整備した。	<b>【特色】</b> 農学部全体の取り組みの中で、農学科としてできることを明確にした。その中で、生産農学という軸は維持しつつ、消費者との連携を意識することにした。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 受験者数の微減傾向がとまっていない。	<b>【問題点】</b> 研究室選抜などの客観的基準としてGPAを利用する場面が増えているが、数は少ないものの編入、転入、転学科転学部生と1年生から入学した学科学生との公平性を保つ方策を立てられていない。
	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし
根拠資料名	資料基5	資料基5

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本年度、大学、学部の方針に則って、農学科でも以下の通り明示した。 1. 持続可能な次世代型農業の創造に貢献できる教員 2. 農学に関する知識を基盤に、作物生産の発展に資する教育・研究能力を持つ教員 3. 農学に関する知識を基盤に、農産物の生産から流通までを支える技術の発展に資する教育・研究能力を持つ教員	学科の教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置した。新人事を進めるにあたって、編制方針を意識した。	本年度新たな教員募集、採用はなかったが、昇格人事については適切に行った。また任期制教員への指導も、「大学任期制教務職員の専任化審査判定表」に基づき適切に行った。	研究室(学科)横断型プロジェクトの推進などを通じて、教員の質の向上に努めた。	学部改組にともない、農学科も新生農学科として生まれ変わり、研究室を改変した。学科内の主任会において、教員組織の適切性について、点検・評価した。また今後の教員採用に際し、農学科の未来を見据えた議論を行った。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 農学科のディプロマ・ポリシーにのっとり内容になっている。	<b>【長所】</b> 実習教育を意識した教員配置になっている。	<b>【長所】</b> なし	<b>【長所】</b> 研究室間、学科間のコミュニケーションを意識して、プロジェクト研究の立ち上げ、実行に力を入れている。	<b>【長所】</b> なし
	<b>【特色】</b> 研究室はもとより、分野を意識した内容になっている。	<b>【特色】</b> 研究活動を教育に活かせる教員を配置している。	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> 地域社会とも結びつくことで、研究成果の社会還元に取り組み、教員の資質向上を図っている。	<b>【特色】</b> なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし
	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし
根拠資料名	資料基 3	資料基 3	資料基 6	資料基 7	資料基 8

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 小川 博  
 学科名・専攻名 動物科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 講じている <input checked="" type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	H30 年度に農学部を改組し、現在、畜産学科と動物科学科のカリキュラムが学年毎に進行している。	教育・研究に関する学生の発表を教室以外のオープンスペースで積極的に実施している。	成績判定会議の結果を学科教員全員に開示し、確認している。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、毎年学科会議で確認している。	教育課程及びその内容、方法の適切性について学生による授業評価を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 学部としての学生像もふまえた、学部共通科目の充実	【長所】 討論へ自由参加	【長所】 成績評価の共通理解	【長所】 学習効果の共通理解	【長所】 定期的に点検・評価
	【特色】 3 学科対制から 4 学科体制 農学リテラシー	【特色】 オープンスペースの活用	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 担当教員の評価が適切であるのか現状では判断出来ない。
	【課題】 H30 年度に農学部を改組し、年度末に特に学部共通科目について点検している。	【課題】 H30 年度に農学部を改組し、年度末に特に学部共通科目について点検している。	【課題】 H30 年度に農学部を改組し、年度末に特に学部共通科目について点検している。	【課題】 H30 年度に農学部を改組し、年度末に特に学部共通科目について点検している。	【課題】 H30 年度に農学部を改組し、年度末に特に学部共通科目について点検している。
根拠資料名	カリキュラム・ポリシーとシラバス	オープンスペース利用記録	合同教授会、進級等の資料	学科会議議事録	全学 FD 委員会でデータを保管。

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学部としての学生像を踏まえ、学科の独自性を確保しながら、学生募集等に取り組んだ。	出張講義には力を入れて、高校生ならびの高校教員からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどを改善した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> アドミッション・ポリシーに基づいた入学試験科目の検討	<b>【長所】</b> 学部としての制度や体制の見直し
	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> R2 年度入試科目には反映出来なかった	<b>【問題点】</b> なし
	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし
根拠資料名	世田谷入試センター入試選考委員会議事録	世田谷入試センター入試選考委員会議事録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学・学部の方針に則り、生命科学関連および良質で安全な食料を生産する生産科学領域で活躍できる人材を養成し得る強い意欲と能力を持った教員	教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置した。	教員の募集、採用は完全公募制とし大学ホームページならびに JRECK-IN で公開している。 昇格基準を満たした教員に対しては、昇格申請を提出する様に指導している。	任期制教員に対しては、毎年教育・研究目標の達成状況を面談にて確認している。 任期制教員以外は、大学が実施している自己点検のみに委ねている。 ベストティーチャー賞、ベストレクチャー賞を学部毎に毎年選出している。	年2回、学科教授会において教員組織の適切性（特に職階と年齢構成）について確認している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ディプロマ・ポリシーに基づいている	【長所】 学際的領域をカバー出来る学科教員体制	【長所】 複数の媒体に寄る公募のため一募集あたり15名前後の応募がある	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 研究室、分野を考慮した編成	【特色】 なし	【特色】 学部長、学科長、分野主任に寄る面談	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 一部昇格が停滞している教員がいる	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	大学 HP の教員・職員公募案内 JREC-IN Portal	東京農業大学農学部教員紹介 農学部 GUIDE 農のこころで社会をデザインする	大学 HP の教員・職員公募案内 JREC-IN Portal 学科会議事録	任期制教員面談記録 大学ホームカミングデー案内	学科会議事録

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 小川 博  
 学科名・専攻名 生物資源開発学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	オムニバス形式の講義を一定数開講し、学科教員の講義に広く接する機会を設け、学生の教育効果の向上を図った。さらに通常の講義以外にも生物多様性に関わる特別講義を実施した。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記すると同時に、初回に口頭で学生に説明している。シラバスの作成及び成績評価は大学の基準を順守して行った。開設2年目であるため学位授与は無い。	オリエンテーションやフレッシュマンセミナー、実習・演習、必修の専門基礎科目時に学科の教育・研究目標を明示し、レポート等で学習成果の把握に努めている。	改組に伴い1年次生の実習・演習がほぼ学部共通の内容となったことで、学科内での点検のみならず、学科横断的な検討委員会を設置し、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 1年次から、農学の基盤となる「生物多様性」を意識した教育を実施している。	【長所】 オムニバス形式の講義により学科教員の講義に広く接する機会を設けている。	【長所】 特になし	【長所】 実習ではポートフォリオの作成を指導している。	【長所】 ・教職員と事務職員で構成される「改組検討委員会」を設置している。
	【特色】 1年次から、座学のみならず、実習・演習科目を前・後期に配置している。	【特色】 講義以外のプログラム実施による生物多様性に関する学習機会を設定している。	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 学科横断的な改組に関する検討委員会を定期的に開催している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名		第1回資源の森ポスター 第2回資源の森ポスター			

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本学科は特定の農用生物のみならず、野生の動植物から昆虫、薬草とそれらの遺伝資源に至る幅広い生物に興味関心を持つ学生を求めており、入試課とも連携して入試制度を整備し、学生募集等に取り組むとともに、公正な入学者選抜に努めた。	開設年度より毎年、学科独自の新入生アンケートを実施し、入学後のミスマッチが起きないように、学科教員間で情報共有に努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 農学系のみならず理学（生物学）系、薬学系志望の学生にも魅力的な学科であること。	<b>【長所】</b> アンケートを活用した入学後ミスマッチの防止に努めていること。
	<b>【特色】</b> 近年、農学分野でもその重要性が認識されはじめた「生物多様性」をキーワードとした学科紹介を徹底していること。	<b>【特色】</b> 出張講義、進学相談などあらゆる機会を捉えた広報宣伝活動による学科の教育・研究への理解促進に努めたこと。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし
	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし
根拠資料名		R1 新入生アンケート集計_資源

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学・学部の方針ならびに学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教員組織の編成の考え方及び特色に従った方針を学科として明示している。	学科新設時に教育研究上の目的を十分理解し、その具現化に向けた強い意欲を持つ教員配置が行われ、維持されている。	設置二年目となり、今後の大学院設置に向けて、昇任等を適切に行なった。	学内外の研究費への積極的な応募による教員の個人研究の推進、他機関研究者との共同研究の推進、さらには研究室や学部横断型の学内外プロジェクトの推進などを通じて、教員の資質の向上に努めている。	教育・研究以外の業務が特定教員に偏らないよう、学科会議等を通じ、組織内での役割分担の点検・評価を行うとともに、事務職員との連携を深め作業の効率的を計るよう努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 実験系とフィールド系教員のバランスを意識したこと。	【長所】 実験系とフィールド系のバランスが取れた教員組織となっていること。	【長所】 大学院設置を意識した人事計画。	【長所】 調査・研究に対する意欲が高い教員が多いこと。	【長所】 特になし
	【特色】 農学の基盤となる「生物多様性」をキーワードとする学科であるため、「植物・動物・昆虫・薬草・遺伝資源」と多様な分野をカバーする教員組織を謳っていること。	【特色】 農学のみならず理学、薬学、人間環境学と多様な分野をカバーする教員構成となっていること。	【特色】 特になし	【特色】 ほぼ全教員が学内外の研究費を獲得し、個人、共同研究プロジェクトを遂行するとともに、教育にも還元する努力をしていること。	【特色】 事務組織との連携を意識していること。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名					

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 小川 博  
 学科名・専攻名 デザイン農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	講義以外にも学生が積極的に関わることのできるプログラムとして、夏休みの地域調査の他、地域経済活性化などのプログラム作成し、興味のある学生が任意に参加できるようにしている。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記している。大学の基準に従った成績評価および単位認定を行った。完成年度を迎えておらず、学位授与はない。	学生の履修状況等を教員で常時共有し対応している。	学科内での点検のみならず、学科横断的な検討委員会を設置し、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 オリエンテーションを含め、積極的に社会と関わるプログラムを設定している。	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 様々なプログラムに学生が積極的に参加している。	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	アドミッションポリシーに従った学生募集及び公正な入学者選抜を実施した。	新設 2 年目を迎え、学生の履修状況と興味のある領域についての把握を行い、3 年次以降のより専門的な教育と研究指導につなげられるように努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 学科の特色でもある文系志望の学生を獲得するために文科系の入試科目を設定している。	<b>【長所】</b> なし
	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし
	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし
根拠資料名	学科会議議事録	学科会議議事録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	今後の適切な教員組織編成に関して、完成年度以降の方向性について検討を随時行っている。	学科を新設する際に予定された組織編成となっている。	適切に実施している。	学科会議等で検討を行っている。	定期的に点検評価を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	学科会議議事録	学科会議議事録	学科会議議事録	学科会議議事録	学科会議議事録

学部名 農学部  
 学部長名 小川 博  
 学科名 バイオセラピー学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input checked="" type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム編成については数年に一度行われるカリキュラム変更に合わせて、科目構成、科目名変更などの見直しを行っていたが、 <u>現在では学科閉鎖が決定しているため、実施していない。</u>	学問体系を学生に理解させるための学科独自のレポート用紙の使用（実験実習科目）、実験実習科目の目的を意識させるための教材の作成と説明を行っている。	学生生活ハンドブック記載の単位、学習時間、欠席の取り扱いなど、履修に関する事項および各科目での評価基準の説明を行っている。	入学時から卒業時まで一貫して、生き物・環境・人とそれらの関係性について学ぶことで学生が自らのバイオセラピー学構築を意識できるよう、指導を行っている。	複数担当科目については第三者によるシラバスチェックおよび学期初めにスケジュールおよび評価方法を学科会議にて議論し、改善に役立っている。単独開講科目については第三者によるシラバスチェック後、再度学科内に回覧し、シラバスの見直しに役立っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ディプロマポリシーを意識した学問体系を具体化した教育課程編成になっている。	<b>【長所】</b> 学生の学問体系理解に役立っている	<b>【長所】</b> 学ぶことの意味を考えながら学修を行ったことの正当な評価として、学生が自らの成績を捉えることができる。	<b>【長所】</b> 学生が目的を見失うことなく学習できる。	<b>【長所】</b> 全学で共通導入されているシステムに準拠しているため、新所属の学科において元所属学科別の齟齬が生じない。
	<b>【特色】</b> (学生は) ほぼ全ての科目から他領域への応用を意識できる。	<b>【特色】</b> 学問体系を理解させた上で、学生に他領域や社会での活用法を意識させることができる。	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> 学生の視野が広くなり、進路の幅が広がる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし
	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし
根拠資料名	なし	学科独自に作成した教材（資料1）	授業の初回に配布する授業概要、スケジュール、評価基準等の説明資料（資料2）	なし	なし

## 2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input checked="" type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	<u>H30年募集停止であるため、該当しない</u>	<u>H30年募集停止であるため、該当しない</u>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	なし	なし

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input checked="" type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学・学部における方針に則り、～～中略～～教員を研究室に配置する。以下の項目を満たすことを要件とする。 1. 農学を基盤とした生き物・環境・人とそれらの関係性に関する理解を有する教員 2. 人の健康と福祉に資する福祉農学の発展に寄与する意欲を備えている教員	H30 募集停止であるため、実施していない。	H30 募集停止であるため、募集および採用は行っていない。また、学科所属教員は、全員が嘱託教員であり、昇任は行っていない。	委員会委員や外部からの委託業務等について、担当者一覧を学科開設当初から H29 年度まで記録し続けた。現在専任教員は全て改組後農学部の学科に異動したため、学科の業務自体を極力簡素化することに重点を置いている。	研究室当たりの学生数に対する教員数などの点検・評価は実施しているが、改組により人事の変更ができないため、改善は不可能である。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 学際的要素が強い教員組織編成であることが理解できる	<b>【長所】</b> なし	<b>【長所】</b> なし	<b>【長所】</b> なし	<b>【長所】</b> なし
	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> 組織の改善が不可能である現状が、学生への教育の質保証を損なうことにつながる危険性がある。
	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし
根拠資料名	東京農大 HP（資料 3）	なし	なし	学科会議議事録の一部（資料 4）	なし

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 小川 博  
 学科名・専攻名 農学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	実学的農業教育による地域社会の担い手養成	学生とのコミュニケーション強化による不本意留年の抑止
実行サイクル	1年サイクル（平成30年～31年）	1年サイクル（平成30年～31年）
実施 スケジュール	9月：世界学生サミットへの参加 11月：収穫祭文化学術展への参加（1年生、3・4年生） 通年：学外農業研修・実習報告会の開催	4月：新入生オリエンテーションの実施 5月、7月：クラス別懇談会の実施 通年：研究室における取り組み 通年：学生相談室との連携
目標達成を測定する指標	就農を含む農業関連産業等への就職者数	不本意留年者数の推移
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	収穫祭文化学術展へはすべての研究室から3ないし4年生が出展しており、1年生に対しては見学を義務付けている。この活動は、大学での学びや社会との結びつきについて考えさせる契機となる。地域社会への関心を高めることを目標としている。「農業インターンシップ」等を通じた学外農業研修への参加も積極的にすすめた。就農を含む農業関連産業等への就職者数は30名以上を維持している。	4月の新入生オリエンテーションは、学科ガイダンス、講義の履修方法の説明会、部や同好会の紹介など、4日間ほとんど欠席者もなく経過した。5月、7月に1年生クラス別懇談会を実施して、大学生活の不安な点などの相談にのった。3年次以降学生全員を研究室に所属させ、きめの細かい指導を実施している。また学生相談室のカウンセラーと連携して、不本意学生の早期発見、対応に努めた。学生相談室の利用、留年者数とも減少した。卒業時アンケートでは非常に満足度が高い学科として位置づけられている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 1年生の文化学術展への参加は、3年生以降の研究室活動へのオリエンテーションとなり、実学的農業教育の一端に触れる機会として有意義と思われる。 <b>【特色】</b> 文化学術展の印象は、3年次の研究室選択の大きな要因となっている。目的意識とマッチした研究室選択は、卒業後の進路を決定づける。	<b>【長所】</b> 新入生オリエンテーションでは、立食形式の歓迎パーティーを実施、最後は応援団の協力の下、青山ほとりで締めくくっている。お互いを知り親しくなるよい機会を提供できている。 <b>【特色】</b> 1年生のクラス別懇談会では、新入生歓迎パーティーで、お互いを知ることができよかったとの学生の声が多くあった。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 世界学生サミットが世田谷開催の年次は問題ないが、海外協定校での参加の場合代替案がない。 <b>【課題】</b> ISFへの参加を呼び掛けるなど、海外への意識を高めていくことが課題である。	<b>【問題点】</b> なし <b>【課題】</b> なし
根拠資料名	資料包1	資料包2 資料包3 資料包4 資料包5

## 2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	研究シーズの発掘と横断型プロジェクトの推進
実行サイクル	1年サイクル（平成30年～31年）
実施スケジュール	通年：横断型研究発表会等の開催
目標達成を測定する指標	学科教員が中心となって組織した横断型プロジェクト数
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<p>大学院生ゼミは個別の研究室もしくは園芸関係合同で実施していたが、これを専攻全体での開催（1月21日）とした。研究室間の相互理解を深めるのに役立ち、また学部生にも公開することで緊張感を保ちながら共同研究の可能性を模索している。学科（学部）横断型プロジェクトとして、総合研究所戦略研究プロジェクトで3年目を迎えたフィリピン共同研究プロジェクト「東ミンドロ州におけるカラマンシー産業の発展に向けた研究と能力開発」や、今年から始まった総研プロジェクト（ゲノム育種プロジェクト）「穀類遺伝資源の全粒粉を利用した高機能性かつ嗜好性を併せ持つ国産食品の開発」を学科の教員が主導して実施した。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色	<p><b>【長所】</b> 総合研究所プロジェクトを利用しながら、研究室相互の連携によって、今までにない迅速かつ総合的な成果が挙げられている。</p> <p><b>【特色】</b> 厚木キャンパスから社会に向けての発信が多くなっている。とくに終了した総研プロジェクトでは現場への技術導入を図り、普及も進んでいる。社会と接点を持つことで、学生に与える刺激は非常に大きい。これらの内容を講義や、オープンキャンパス、出張講義などで紹介すると、学生、生徒の関心を強く引く。</p>
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p><b>【問題点】</b> なし</p> <p><b>【課題】</b> なし</p>
根拠資料名	資料包6 資料包7

3. その他に関する総合的事項

	①	②
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生の確保	公務員（とくに農業職）への就職支援
実行サイクル	1年サイクル（平成30年～31年）	1年サイクル（平成30年～31年）
実施 スケジュール	通年：出張講義 通年：個人・団体見学対応 8月：オープンキャンパス 5月、6月：キャンパスツアー（厚木、世田谷） 11月：進学相談会	2月：公務員試験対策講座
目標達成を測 定する指標	受験者数 新入生アンケート	公務員試験受験者数、合格者数
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	例年通り、出張講義、個人・団体見学に積極的に関与している。オープンキャンパス、キャンパスツアー、進学相談会等にも教員を派遣し、受験生確保に努めた。キャンパスイベント等への参加者、受験者数とも微減にとどまっている。	公務員試験対策講座を担当する講師を選出し、実施した。公務員合格者数は、都道府県、市町村を中心に大幅に増加した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 出張講義などを積極的に受け入れることで、受験生の要望にも触れることができ、自らの教育研究活動を振り返ることができる。	【長所】 なし
	【特色】 東京農業大学を代表する学科であり、外からの講義等の要望も根強くある。とくに農業高校と連携できる点、他学科にない特色となっている。	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 キャンパスに受験生をまねくイベントが多いため、参加する受験生に重複がみられる。	【問題点】 なし
	【課題】 こちらから積極的にアピールする場を、キャンパス以外で設定することが課題である。	【課題】 なし
根拠資料名	資料包8 資料包9	資料包1

学部 農学部  
 学部長名 小川 博  
 学科名 動物科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	進級・卒業率の向上	卒業生による特別講義の実施	優秀論文発表会の実施
実行サイクル	4年サイクル（平成30年度～令和3年度）	4年サイクル（平成30年度～令和3年度）	
実施スケジュール	出席状況不良者への指導（毎年6月，7月） 成績不良者への指導（毎年5月，2月）	毎年前期1～2回程度（畜産学科同窓会共催）	毎年1月（各研究室口頭発表1名，ポスター発表2名）
目標達成を測定する指標	進級・卒業率	実施回数	実施の有無
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	100%，卒業，進級を目指したが，各学年数名留年者は出してしまった。	動物科学概論の講義の一貫として、7/18と7/25に実施した。	1/22 トリニティーホールと学生会館にて実施 1) 口頭発表6名 2) ポスター発表12名
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 担任によるきめ細かい指導	【長所】 同窓会との連携	【長所】 学科の他研究室の研究を聴講出来る。
	【特色】 メール，面談等による個別指導	【特色】 本学科卒業生に限定している	【特色】 2年生は，ほぼ全員参加していた。1年生，他学科の学生・教員の参加もあった。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 日程調整が難しい	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	学科会議議事録	学科会議議事録	優秀卒論発表会講演要旨

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	学会発表への参加	論文発表への参画
実行サイクル	4年サイクル（平成30年度～令和3年度）	4年サイクル（平成30年度～令和3年度）
実施 スケジュール	年間を通じて	年間を通じて
目標達成を測 定する指標	具体的な指標は定めていない。	具体的な指標は定めていない。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	研究室個々の活動と、研究室、学科、学部間の連携した活動	研究室毎の活動が多い
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 研究に対するモチベーションのアップ	<b>【長所】</b> 研究に対するモチベーションのアップ
	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 調査しないと現状が分かり難い	<b>【問題点】</b> 調査しないと現状が分かり難い
	<b>【課題】</b> 学科 HP, 研究室 HP・FB での積極的な公開	<b>【課題】</b> 学科 HP, 研究室 HP・FB での積極的な公開
根拠資料名	関連学会 HP	PubMed, 関連学会 HP

## 3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	改組に伴う新旧カリキュラムの円滑な移行
実行サイクル	3年サイクル（平成30年～令和2年）
実施 スケジュール	H30（H29, H30年度カリキュラムの混在） H31～R2（H29, H30, H31年度カリキュラムの混在） *H31年度以降はカリキュラムは同じ
目標達成を測 定する指標	時間割編成 単位取得状況
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	畜産学科カリキュラム（H29）、動物科学科カリキュラム(H30)、動物科学科カリキュラム(H31)が数年に亘り共存 *H31年度以降はカリキュラムは同じ
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 R元カリキュラム（適正開講科目の見直し）
	【特色】 農学部全学科横断的実習、演習、英語科目の設置
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 新旧学科の混在
	【課題】 時間割編成
根拠資料名	時間割編成 単位取得状況

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 小川 博  
 学科名・専攻名 生物資源開発学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	ディプロマ・ポリシーを実現するための完成年度に向けた教育課程の構築	学生の教育環境の保証（大学生生活を含めた学生の充実した教育環境作り）
実行サイクル	4年サイクル（平成30年～33年）	1年サイクル（平成30年～31年）
実施 スケジュール	年間を通じて：学科会議等 12～1月：シラバス作成時	年間を通じて：学科会議において教員間で学生の教育および大学生生活の現状を共有する（4～3月）
目標達成を測 定する指標	シラバスの作成と点検・見直し	学科会議議事録（教員への周知と議論内容）
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学科会議等を通じて学科の教育・研究方針を教員間で議論し共有し、ディプロマ・ポリシーを意識したシラバス作成に努めている。学科会議は定期的を実施している。	学科独自の新生アンケートの導入やクラス別懇談会の実施、必修科目を中心とした出席状況の把握と学科会議での情報共有に努めた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 特になし  【特色】 特になし	【長所】 学生の意識や学習意欲が把握できること。  【特色】 学科会議ごとにFD関連の情報共有に努めていること。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし  【課題】 ディプロマ・ポリシーを意識したシラバス作成の継続に努める。	【問題点】 特になし  【課題】 特になし
根拠資料名		R1 新生アンケート集計_資源 学科会議議事録

## 2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	生物多様性の解明や保全、生物資源の利活用に関する総合的・横断的研究の基盤構築
実行サイクル	_ 4 _ 年サイクル（平成30年～33年）
実施 スケジュール	年2回程度の研究発表会等の開催
目標達成を測 定する指標	学内プロジェクトや外部資金申請数、採択数
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<p>1年次にはフレッシュマンセミナーの時間を活用して、学科教員の研究紹介ワークショップを2回、2年次には次年度の所属研究室選択に関する説明会の時間を設定し各研究室の研究内容説明を実施した。各教員が現在取り組んでいる研究テーマやプロジェクトに関する情報を教員間だけでなく、学生とも共有できた。</p> <p>学科の多数教員を構成員として学内戦略研究プロジェクトに申請し、採択された（研究課題名：植物・昆虫・動物の多様性を指標とした島嶼農業生態系の評価と保全、期間：2019年度～2021年度）。</p>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p><b>【長所】</b> 分野横断的な研究が促進される。 学科教員によるプロジェクト研究の推進により、生物多様性に関する研究基盤の構築が進んでいる。</p> <p><b>【特色】</b> 学生を交えた発表会とすることで、発表する教員も分かりやすい説明を心がけ、専門分野以外の研究内容も理解しやすくなる。 分野横断的な研究展開により学科の特徴を分かりやすく発信できるようになる。</p>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p><b>【問題点】</b> 特になし</p> <p><b>【課題】</b> 特になし</p>
根拠資料名	生物資源開発研究ワークショップ 2019 R1 研究室選択説明会資料

## 3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生と学生数の確保
実行サイクル	_ 4 _ 年サイクル（平成30年～33年）
実施 スケジュール	通年：出張講義 通年：個人・団体見学対応 キャンパスツアー、オープンキャンパス、収穫祭の進学相談時の対応
目標達成を測 定する指標	来場者数 受験者数 新入生アンケート
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	出張講義に関しては入試課の協力も得て、関連する分野の依頼があった際は積極的に対応している。個人・団体見学にも見学者の興味に応じた担当教員で対応している。また、オープンキャンパス、キャンパスツアー、進学相談会にも教員を派遣し、受験生の確保に努めた。学内イベントでは教員のみならず院生・学部上級生の協力を得て、高校生や保護者への対応に当たっている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> オープンキャンパスでは院生や学部上級生が現在取り組んでいる研究内容の紹介を行い、受験生が入学後の具体的イメージを持てるように図った。 <b>【特色】</b> 植物から動物、昆虫、薬草、遺伝資源に至るまで幅広い分野の講義依頼への対応が可能である。 学科独自の新入生アンケートを実施した。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 特になし <b>【課題】</b> 開設2年の新学科であることから、3年目以降も学科を積極的にアピールし継続して受験者を確保していく努力が必要である。
根拠資料名	2019年度キャンパスイベント等結果報告 atsugi_leaf2019_b

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 小川 博  
 学科名・専攻名 デザイン農学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	ディプロマ・ポリシーを実現するための完成年度に向けた教育課程の構築	学生の教育環境の保証（大学生活を含めた学生の充実した教育環境作り）
実行サイクル	<u>4 年サイクル（平成30年～令和3年）</u>	<u>1 年サイクル（平成31年～令和2年）</u>
実施 スケジュール	<u>年間を通じて：学科会議等</u> <u>12～1月：シラバス作成時</u>	<u>年間を通じて：学科会議において教員間で学生の教育および大学生活の現状を共有する（4～3月）</u>
目標達成を測 定する指標	<u>学科会議の実施</u> <u>シラバスの作成と点検・見直し</u>	<u>学科会議議事録（教員への周知と議論内容）</u>
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学科会議を定期的実施している。	学科会議で課題点について検討を行う。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 特になし	【長所】 特になし
	【特色】 特になし	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	学科会議議事録	学科会議議事録

## 2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	生物素材、食品素材等の機能性の解明やそれを応用した機能性製品、や機能性食品の利活用研究を行う。また食農デザインの在り方等についても基礎的研究から実践までの提案を行う。
実行サイクル	_____4年サイクル（平成30年～令和3年）
実施 スケジュール	年1、2回程度の研究発表またはシンポジウム・セミナー等の開催
目標達成を測 定する指標	企業等の受託研究数および共同研究数、開発製品等
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<p>各教員が専門とする研究領域において取り組みを進めている。</p> <p>令和2年度からの研究室学生受け入れに向けて速やかに移行できるように準備を進めている。</p> <p>外部からの講師を招聘しセミナーを開催したが、様々な領域の知見を広められることについて学生の反応はとても良い。</p>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 特になし
	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし
根拠資料名	セミナー等の資料 学科会議議事録

## 3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生と学生数の確保
実行サイクル	4 年サイクル（平成30年～令和3年）
実施 スケジュール	通年：出張講義 通年：個人・団体見学対応 キャンパスツアー、オープンキャンパス、収穫祭の進学相談時の対応
目標達成を測 定する指標	来場者数 受験者数 新入生アンケート
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	依頼のあった出張講義や見学依頼に積極的に対応している。 進学相談にも学科教員で対応している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 特になし  <b>【特色】</b> 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 特になし  <b>【課題】</b> 特になし
根拠資料名	学科会議議事録等

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 小川 博  
 学科名・専攻名 バイオセラピー学科

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	ディプロマポリシーを実現するための取り組み(含H28からの継続課題;学科廃止まで継続する)
実行サイクル	4年サイクル(平成29年～令和2年;3年目)
実施 スケジュール	<p>毎年度、学科教員に対して、各学年に段階的にディプロマポリシーの根幹部分である「生き物・環境・人について学び、それらの関係性について考える」機会を与えるように、学科会議内にて指示する</p> <p>指示内容</p> <p>① 3年・4年生に対して;東京農業大学における学びの中心である研究室において、専門的な教育を深めるとともに、受講した座学・実験実習演習内容が他研究室・分野、あるいは社会のどのような内容に役立つのかを考えさせる教育を研究室単位で行う</p> <p>② 領域横断的、学際的要素の強いバイオセラピー学を個々で構築することに役立ち、ひいては他者にバイオセラピー学を説明する時(例;就職活動時に面接官に説明)に役立つことを説明する</p> <p>③ これらをふまえ、目標を達成するための学科の業務の効率化の具体的手法を学科会議にて周知する</p>
目標達成を測定する指標	・学科会議議事録(教員への周知内容)
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した(継続) <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	H30農学部学部改組の業務とのバランスを考えながら、各教員が工夫しながら実行している。
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】 なし</p> <p>【特色】 なし</p>
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】 なし</p> <p>【課題】 学科閉鎖まで、年度単位での工夫が必須</p>
根拠資料名	学科会議での教員への周知資料(資料4)

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	生き物・環境・人に関する基礎的研究およびそれらの関係性に関する実践的バイオセラピー研究を継続し、学部改組後の新生農学部（農学 2.0 実現）の内容に貢献する知識基盤を構築する	学部生向け研究倫理教育を実施し、学士力の質向上に役立てる
実行サイクル	__4__年サイクル（平成 29 年～令和 2 年；3 年目）	__3__年サイクル（平成 30 年～令和 2 年；2 年目）
実施スケジュール	H31 年度は農学部改組 2 年目に当たる。そのため、農学 2.0 のビジョンにのっとり、各々がこれまでの研究にさらに創意工夫を凝らし、新たな展開へと導くよう努力することを目標とする。	3,4 年生に対して；個々の教員が研究活動を通して実践的に実施（研究倫理教育は H30 年に全員に実施済み）
目標達成を測定する指標	卒論題目（H31 年度版）	なし
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した（個々の教員に口頭にて確認したことをもって判断） <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	バイオセラピー学専攻が中心となって、バイオセラピー研究を推進している。	研究を行わせながら、実践的に研究倫理の重要性について学ばせている
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 バイオセラピー学専攻の改組後農学部への貢献を意識できる	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 教員個々の新所属先での研究と、現在の学生に対する研究指導をうまく使い分ける必要がある。	【課題】 なし
根拠資料名	卒論題目（H30 年度の一部；資料 5）	なし

## 3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	通常業務の効率化と学科教員の教育・研究のための時間確保
実行サイクル	4 年サイクル（平成 29 年～令和 2 年；3 年目）
実施スケジュール	H30 農学部改組に際し、ほとんどのバイオセラピー学科の教員は新生農学部の 4 学科全てにそれぞれ異動した。これは、移行期にはほぼ全ての教員が 2 学科にまたがる業務を負うことを意味するが、改組後完成年度を迎えるまで現状の業務運営を続けていては、研究教育にかかる時間が大幅に削られる。そこで、限られた時間の中で極力研究教育の時間を、特に若手教員に確保していただくために、学科運営を効率化する。具体的なスケジュールとしては、①学科会議の内容を過去の運営ログから抽出し、会議開催回数を最小限にとどめる、②業務が均等に割り振られるように工夫（特定の教員に業務が集中しないように配慮）する。①と②をH29年度より学科が廃止されるまでの間、継続する。
目標達成を測定する指標	年間学科会議回数など、通常業務のまとめ資料
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	学科会議については議題の精査、連絡方法（メール、ポータル）の使い分けによって、開催回数を大幅に減らすことができた。しかしながら、新所属先での各教員の業務が把握しきれず、業務の均等分担が困難な状況となった。一方で、前年度の課題であった「特定の教員への業務負担の偏重化を防ぐ」については、特に最終年度まで継続する時間割編成委員を学科長（業務量は学年減少により漸減）が行うなどの工夫によって解決につなげることができた。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 なし
	【特色】 なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 なし
	【課題】 なし
根拠資料名	学科会議資料（資料 4）